

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：観光(3)	
日付：11月 3日（月）曜日、セッション時間：15:00～16:30	
司会者名（所属）：古屋秀樹（東洋大学）	
討 議 内 容	セッション全体： 論文 256, 257 は、それぞれプローブデータ、ログデータを用いて、観光行動の分析、観光行動に対する評価を詳細に分析しようと試みるものである。また、論文 258 は、観光交通における機関分担をリスク回避、自動車利用意向という要因を導入することによって、その意思決定行動を詳細に表現しようと試みるものである。 観光行動については、複雑な意思決定構造やデータハンドリングの困難さが存在するため、これら問題点について精力的に取り組んだ論文と考えることができる。実務へのフィードバックを念頭にしながら、さらに研究を進める必要性について言及があった、
	（256）竹隈史明（復建調査設計株式会社） 論文タイトル：プローブパーソン調査を用いた観光周遊行動に関する基礎的分析 ①対象地域の認知の差異によるエントリーデータの特性、②観光地活性化の観点から、滞在時間、周遊経路をどのようにとらえるべきか、③情報提供の精度と観光者の満足度との関連性の問題提起、④攪乱要因が観光周遊プランに与える影響、等についてコメントがあった。
	（257）神田佑亮（オリエンタルコンサルタンツ、広島大学大学院） 論文タイトル：ログ情報を用いた観光行動・意識分析の適用可能性に関する基礎的研究 ①形態素解析によって個別要素に分割されるため、どのように文脈を見出せばいいのか、②今後の展開として、出現数などの定量的な分析方法や、他のデータベースを活用した個人の属性・嗜好を考慮した分析手法への拡張、③データの客観性について、等についてコメントがあった。
	（258）柴田宗典（鉄道総合技術研究所） 論文タイトル：幹線旅客の交通機関選択行動における意思決定プロセスのモデル化 ①非集計モデルからの改善度合いについて、②キャプティブ層とセレクトティブ層の定義、③分析対象トリップをさらに長距離に設定した場合の選択確率について、等についてコメントがあった。